

- |      |   |      |      |                                    |      |
|------|---|------|------|------------------------------------|------|
| 5.48 | 日ソ通, (日本語訳)<br>ソ連, 非金属窒化物, 日ソ通,<br>(日本語訳) | 71年版 | 5.57 | ソ連, 溶媒抽出便覧, 日ソ通,<br>(日本語訳)         | 72年版 |
| 5.49 | ソ連, 酸化物の熱物理的性質, 日ソ通,<br>(日本語訳)            | 75年版 | 5.58 | ソ連, 耐火物と組織と性質, 日ソ通,<br>(日本語訳)      | 72年版 |
| 5.50 | ソ連, データブック・高融点化合物<br>便覧(日本語訳)             | 77年版 | 5.59 | ソ連, 便覧; 半導体系の固溶体,<br>日ソ通, (日本語訳)   | 78年版 |
| 5.51 | ソ連, 難融性化合物便覧; 熱力学的<br>特性, 日ソ通, (日本語訳)     | 72年版 | 5.60 | ソ連, 金属水酸化物, 日ソ通,<br>(日本語訳)         | 72年版 |
| 5.52 | ソ連, 無機ふつか物の主要性質便覧,<br>日ソ通, (日本語訳)         | 76年版 | 5.61 | ソ連, 金属酸化物の還元過程の熱力学,<br>日ソ通, (日本語訳) | 70年版 |
| 5.53 | ソ連, 無機化合物の分子定数, 日ソ通,<br>(日本語訳)            | 79年版 | 5.62 | ソ連, 液体の沸騰, 日ソ通, (日本語訳)             | 73年版 |
| 5.45 | ソ連, 気体と液体の熱物理学的性質,<br>日ソ通, (日本語訳)         | 72年版 | 5.63 | ソ連, ガラスの化学, 日ソ通,<br>(日本語訳)         | 70年版 |
| 5.55 | ソ連, 金属酸化物の状態図, 日ソ通,<br>(日本語訳)             | 70年版 | 5.64 | ソ連, 高耐火性酸化物セラミックス,<br>日ソ通, (日本語訳)  | 77年版 |
| 5.56 | ソ連, 最新酸化物便覧, 日ソ通,<br>(日本語訳)               | 78年版 |      |                                    |      |

なお、この目録に収録された数値データ集は、日本小型自動車振興会からオートレースの収益の一部である機械振興資金の補助を受けて収集しました。

## 編集後記

秋の講演大会もあとひと月に迫り、発表予定の会員の方々は、データの解析やスライドの準備などでお忙しいことと思います。講演概要はすでに7月の初めに提出してあるので、その時点で発表内容が決まっているわけですが、中にはその後の“追い込み実験”でかなりの手直しを余儀なくされている人もいないのでしょうか。大会に出席して実際に講演も聴いた会員が、「期待と随分違っていた」という感想をもつ場合があるのも、そうしたことが原因かも知れません。何といたっても春秋2回の講演概要集が、鉄と鋼誌ではいちばんよく読まれる号です。国外でもすぐに自国語に翻訳するところはかなりあるようです。「概要にすぎない」と軽視せず、内容も文章も十分に吟味して書いていただきたいと思ひます。

ところで編集委員には、講演を聴いて技術開発内容のすぐれたものを選び出し、編集委員会に推せんする義務が課せられております。鉄と鋼誌に技術報告として投稿していただくためです。技術報告というのは、生産現場での操業試験や設備の新設、改良といった、技術者に興味をもつて貰える内容が中心です。それはまた開発を担当した方達にとつても、自分達でやつた仕事が学会誌に掲載され、記録として後世に残るといふ意味があるのではないのでしょうか。

技術報告として勧誘する講演数は、毎回15編を越えますが、特別な事情がない限り、ほとんどの場合「諾」の返事をいただいております。そして入稿した技術報告原稿は、査読にあつた編集委員はとくに念入りにみることにしています。論文構成や表現の面でもよい報告になるよう、丁寧に修正意見を述べます。それは研究論文と違って、学会誌の原稿をあまり書きなれていない方の執筆が多いからです。内容的にも形式的にも立派な技術報告が鉄と鋼誌に載るよう、編集委員会ではこのような努力を払つております。

ただ残念なのは勧誘した報告の“入稿歩留り”が悪いことです。「諾」の返事をいただいても、年月が経つて立ち消えになる場合がかなりあります。何件かを追跡調査してみますと、「かならず書くつもりで返事を出したのだが、その後急に忙しくなり、つい……」、[配置が変わつてしまい、なかなか、……]等々の事情がわかりました。しかしながら自分達が多大な努力を払い、またたくさんの人々の協力を得て開発した技術の内容が、会員にはもちろん、国外の技術者にも知られずに埋もれてしまうのは、本当に惜しいことだと思います。現場の技術者にはいつそうの御努力をお願いするとともに、編集委員会でも何らかの対策をとるべきではないかと考える次第です。(M. S.)